

---

# 海防人（うみもりびと）

オルカ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

うみもりびと  
海防人

### 【Nコード】

N0889D

### 【作者名】

オルカ

### 【あらすじ】

仮想日本の現代：日本に自国は守れるのか…

## 101 護衛艦（前書き）

フィクションです。独断、偏見、自分のあやふやな知識で書いてます。ご了承ください。

## 101 護衛艦

この物語は仮想の世界の日本での話である。

「タラランタラランタラランランラン……総員起こし……」

部屋は甲高い音の管楽器の目覚ましで慌ただしく一日が始まる。ここは鉄の城の中。護衛艦。日本国海上自衛隊の戦闘艦である。一日は起床ラッパで始まるのである。

Tシャツとパンツ姿の男達は2分とかからぬ速さで青の作業服に着替えると食道へと向かう。狭くて急なタラップを上がり狭い通路の防水ハッチをくぐりながら早歩きで歩く。

すれ違う者同士は挨拶をする。なんとも活気に満ちている。

護衛艦とはなにか……

日本国自衛隊が所有する緒外国が保有する『駆逐艦』の事である。

日本は軍備を持たない為対外的な影響を考えて防衛的な意味合いを含めて『護衛』という名前を使ったといわれている。

装備はアメリカ軍と比べては劣るが性能で言えば世界でも2、3位クラスであるといえる。

しかし……

「1等海士三木 淳！丙戌19年8月1日付護衛艦はたかぜ乗組を命ぜられただいま着任いたしました！よろしくお願い致します！」  
純白のセーラー服を着た凛々しい青年が、まるでロボットの様な機敏な動作で敬礼をする。

すると帽子のつばに金色の葉っぱの様な模様が付いた艦長が敬礼を

返す。

101 護衛艦（後書き）

私個人は輸送艦に乗りたかった…

102 海士（前書き）

分かりずらくてすみません…

## 102 海士

「艦長の岩田一佐です。頑張ってください。」

礼式が終わると田中は居住区に案内をされた。居住区とは早い話が寝室である。

まずは護衛艦はたかぜの説明をしておこう。

護衛艦はたかぜとはミサイル護衛艦でイージス艦の前代の防空を担当している護衛艦である。乗組員は300名前後である。武装、5インチ単装速射砲2基 アスロック対潜ロケット8連発射機1基 ターターミサイルランチャー1基 CIWS 20mm機関砲2基 3連装対潜単魚雷発射筒2基 これがはたかぜの武装である。リーダー等はイージス艦等は比べてかなり劣るがターターミサイルランチャーの対空ミサイルは今だに一線級の能力を持つ。

自分の寝床に荷物を置くと次に持ち場（仕事場）の艦橋に上った。艦橋とは船では最も高い所にあるいわば運転席である。護衛艦では唯一と言ってもおかしくない常に外が見える場所である。

艦橋の中に入ると蒸し暑い空気が立ち込めていた。

「失礼します！1等海士、三木 淳！護衛艦はたかぜ 乗り組みを命ぜられただいま着任いたしました！よろしくお願い致します！」  
敬礼をすると作業台に向かっていた小太りの青の作業服を着た男が敬礼をした。

「おう。ご苦労さん。信号長の今井曹長です。あゝ艦内では隊司令と艦長以外は省略だからな。後は竹中海曹に聞いてくれ。竹中！お前、教育係な。」  
そういうと海図に向かって何かを始めた。



「竹中三曹です。三木は1週間初任海士教育を受けてもらう。教育期間が終了したら航海科に戻って来てもらう。作業服に着替えて食堂に1300に集合だ。」

「分りました。」

初任海士教育とは部隊、艦船に配備となつた海士に各部隊、艦船に必要な知識や行動、作業を覚えさせる教育である。

ついでにここで階級についても説明しておこう。階級は上下関係を明確にさせるものである。自衛隊は大まかに上から『将』『佐』『尉』『曹』『士』に別れている。細くなるので数字は小さくなればなるほど位が高くなると考えると良い。

1130は食事の時間だ。竹中3曹が居住区に迎えに来て一緒に食堂に行った。今日は金曜日なのでカレーの日だ。かなり有名な話だが海上自衛隊では毎週金曜日はカレーなのである。なぜかと言うと出航してしまうと曜日は関係なくそれぞれの作業に就く為曜日感覚が失われてしまう。そのために金曜日をカレーとしているのだ。

「席に着いて食べる時は箸を持つ手以外は膝の上に手を置くんだぞ。席が狭いから隣の人に迷惑をかけないためだからね。」

そういうとかなり早いスピードでカレーを食べる。一般家庭などでこのような食べ方をしたら間違いなく怒られるだろう…

「三木。サイドパイプを持って上甲板に来い。」

竹中3曹はそれだけ言うとかラップを上って行った。

サイドパイプとは停泊中に艦内放送と科業グループ(部署)、分隊整列時の号令に使われる独特な高音を出す笛である。それぞれ笛の鳴らし方によって号令が違つのである。

102 海士（後書き）

新造へり護衛艦ひゅうがが見たい今日この頃…

## 103 仕事（前書き）

評価をお願いします！参考にしたいです。

## 103 仕事

サイドパイプを持ち上甲板へあがると

『ホヒーホー』という甲高い音がしている。竹中海曹だ。

「お前も海士教育が終わったら舷門に立つ事になるからサイドパイプをしっかり練習しとけよ。」

サイドパイプの号令を一通り教えて貰う。しかし以外と簡単そうに見えるサイドパイプは綺麗な音が出ない。1週間で出来る様にしなければならぬ…

海士と言うのは非常に忙しい。まず自分の持ち場の仕事。船の入口の舷門。次に士官室係。

士官とは幹部であり前にも説明した階級の『尉』以上である。士官室はその幹部である者達が食事、オペレーション（ミーティング）の時に集まる場所で士官室の掃除、お茶番、食事の準備等をする当番である。さらに前任海曹室という各分隊（攻撃、船務、機関、補給、航空）の曹階級の最上位が生活をする部屋があり、その部屋も士官室と同様の世話をするのだ。

ついでに艦内の構成を話しておこう。大砲やミサイルなどの武器を担当しているのが1分隊（攻撃分隊とも呼ばれる）でレーダーや操舵や見張りを担当しているのが2分隊（船務分隊）である。そして3分隊は機関科、4分隊は補給、炊事科、はたかぜには存在しないが5分隊航空科である。他にも存在

しているようだ。（作者の知識不足でわからない…）

そして各分隊にも持ち場がある。

はたかぜで例をあげると5インチ砲の前部と後部で51番砲と52

番。

対艦ミサイルと対空ミサイルのミサイル、右左舷の20mmCIWSを21番22番（船は左と前を1右と後を2としている。）、2分隊に航海科（航海科だけはなぜか科なのである…）3次元レーダー、CDS（戦闘指揮システム）3分隊にガスタービン（船の動力）、電気、応急、4分隊に炊事、補給、経理、医務、まだまだあるがこのような沢山の言わば『班』に別れている。

103 仕事（後書き）

小説は本当に表現が難しい…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0889d/>

---

海防人（うみもりびと）

2010年10月9日22時57分発行